

## 主張

新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックの発生は、今後気候変動の中で次々に出現すると言われている。コロナ禍で見えてきた社会システムの矛盾や教訓を検証して、現実となってきた気候危機の問題にも並行して対処していかねばならない。

日本を含め多くの国は経済成長を最優先にする「新自由主義」（政府の経済的役割を見直し、政府の役割を小さくする考え方。市場における経済活動への介入を少なくし自由競争を推奨する立場）

の下、社会を営んできている。もうけにならないものは軽視され、感染防護用品など何かあったときに必要なものを生産する余裕のない社会になっていた。市場にすべてを

済軍事優先で社会保障費抑制政策の下で脆弱なものとなっており、国民の命と健康が守れない状況に陥ってしまった。また、新自由主義の下、自然を破壊することで、

地球規模の感染症対策に国際社会は一致団結して英知を集め、より一層の連携協調が必要である。同様に気候危機に對しても国際的な対策・連携が必要である。新自

の社会の在り方をやめて、もつと他者と自然をケアするような社会にしていく必要がある。このままコロナ禍以前の社会に戻すだけでは環境破壊も食い止められず、新たなパンデミックや気候危機に對処することはできない。環境・経済・社会は三位一体であるという考え方で新たな社会・ポストコロナの社会を真剣に考えて行動し活動していく必要がある。政治・政策への監視・関心を今まで以上に一人一人が持つていくことが重要である。

# コロナ禍と気候危機

任せていたら非常時に對応ができないことや、企業が好き勝手する社会では、矛盾が広がり危機に對処できないことが明らかにになってきた。医療体制や公衆衛生体制は、経

人間とウイルスの距離は近づき、環境変化に伴って動物も移動し、ウイルスも一緒に移動・拡散する中で今後も新たなパンデミックの発生が予想される。

由主義の下で大量生産・大量消費が重要視されているが、この社会の在り方は人間と地球からいんな資源を奪って、労働者も搾取する「ケア無き社会」となっている。そ